

小学校英語教育の実践と評価

--- 英語教育強化地域拠点事業・小諸市の試み---

英語を使って、世界に羽ばたこう！
Use English and Challenge the World!
学ぶ英語から、使う英語へ

渡邊時夫(WATANABE Tokio)

長野県小諸市教育委員会指導主事(信州大学名誉教授)

要約

Listening 力の育成を英語教育の最も大切な基本と考え、HRT と ALT の使う input を meaningful で comprehensible な内容とするよう配慮している。このため、HRT と ALT の研修を充実させることに力を入れている。すべての学校の代表者と ALT 全員で「英語教育推進委員会」を組織、また、ALT を対象に毎月 1 度 ALTs meeting を開催して、ALT の英語使用力と指導力の向上に努めている。各学校内に「英語部会」を立ち上げたのも in-service training を狙いとしている。教員は多忙であるため、授業が英語力育成の「道場」であることを徹底している。本論では、HRT や ALT の input の質の工夫と子どもたちの listening 力との関係、指導上改善すべき様々な工夫などを取り上げ詳述している。また、文字学習も重視しており、CAN-DO リストと教育内容を示した後、その成果をグラフで提示し、コメントを添えている。

(聞いて理解する力、文字指導、現職教員研修)

1. はじめに

(1) 小諸市における英語教育の背景

① ALT の独自採用

ALT を小諸市独自で採用することとした。6 校ある小学校専用にと 3 名、2 校の中学校には各 1 名ずつ常駐させることとした。児童・生徒にはできるだけ異なった文化圏出身の

ALTを採用することとし、中学校の二人は、アメリカとウガンダの出身者。小学校にはカナダ、アメリカ、そしてオーストラリア出身者を配置した。

② HRTの姿勢

当然のことながら、英語には無縁だった大多数のHRTは、英語とどう向き合ったらよいか途方に暮れていた。問題は、HRTだけではなく、ALTも多くの問題を抱えていた。そこで、先ず組織を2つ作ることにした。一つは「小諸市英語教育推進委員会」とし、小学校と中学校の各校から選ばれた(27年度からは高校を含め)1名と、すべてのALTをもって組織し、2か月に1度英語教育に関する課題解決に当たることにした。もう一つは、すべてのALTと指導主事の6名(高校を含め現在は7名)によって組織し、毎月研修会を続けている。ALTの教育が不可欠と考えたからである。

③ 市内すべての小学校に共通のカリキュラムの作成

同時進行で実施したことは、1年次から6年次までのカリキュラムの作成である。派遣会社などでの研修や、出身国の大学等で研修を受けた経験のあるALTが多かったことも手伝って、カリキュラムの原案は、ALTs meeting で作成し、推進委員会での検討を経て、各校の意見を聞きながら、初めての本格的な「小諸市立小学校英語カリキュラム」を完成させ、2014年度(平成26年度)からこのカリキュラムによって授業を進めている。

④ Team-Teachingの開始

共通のカリキュラムに沿って、ALT s meeting で研修を積んだALTとTeam-Teachingの授業が始まった。以前とは異なり、HRTの授業に対する姿勢と熱意は一変した。授業は、本来HRTが主導すべきであることと、これからの英語教育は、コミュニケーション力の育成が狙いであることから、HRTは、常にALTと二人で子どもたちの前に並び立つことを原則としたからだ。コミュニケーション力は、一人の指導者よりも、二人の指導者が常に英語を使って指導することの方が効果的だという考えからである。

⑤ 英語教育のprincipleの徹底 --- Use English and Challenge the World !

これまでの英語教育は、先ず、(a) 文法、発音、文字など正確に勉強して、しかる後に、(b) 使う練習をしよう、という筋書きに基づいていた。しかし、誰もが体験しているように、失敗に終わっている。そこで、小諸市は、下記の通り、英語教育を大きく変えようと考えた。

--- Listening input (理解可能な英語のインプット)を大切にしながら、英語を使うことによって、コミュニケーション力を徐々に伸ばすための工夫を実践。

徹底したListening重視 << Listen ⇒ Think ⇒ Judge ⇒ Decide ⇒ Talk (表出) >>を英語教育の最も大切なPrincipleとし、1年生から6年生まで、すべての授業をALTとのTeam-Teachingにより実施することとした。

⑥ 授業の進め方 (HRTの研修も目指す)

この部分は、大切なので、少々詳しく述べる。

A) HRT と ALT とで次回の授業の打ち合わせを行う。この段階は、HRTが生きた英語 (communicative use of English) に触れる貴重な機会。

検討の結果をHRTが英語交じりの日本語でまとめる。

B) 授業開始まえに、黒板に、Today's Plan (or Menu)を英語で示す。

狙いは2つ:(a) HRTの英語使用力アップ、(b) 子どもたちに授業の中身を知らせ、

心の準備をさせる。

(例) 1. Greeting (HRT & ALT will exchange casual talk; Exchange some words with students)

2. Today's plan ----(例) ① Review, ② Song ③ Activity 1, ④. Activity 2, ⑤ Reflection

ALT が授業責任者の HRT に、What are we going to do today? と尋ねる。HRT は、授業の順序に沿って、例えば、次の様に、生徒に分かり易い方法で答えていく。

HRT: Well, today, we'll review, first.

ALT: You mean the practice of the days of the week?

HRT: Yes. Do you remember the first day of the week?

ALT: Sure. It's Sunday. What is the day after Wednesday?

HRT: (To the class) Do you know the answer? (このように、二人で Demo をしながら、進める。

ALT: What are we going to do next?

HRT: We'll sing a new song? Do you know the name of the song?

ALT: I think it's phonics song.

- C) いよいよ授業を始める。大切なことは、英語の活動に入る前に、必ず、HRT と ALT とで先ず、活動の Demo を行う。続いて、先生の内一人と生徒 (volunteer など) とで行い、活動が複雑な場合は、さらに数名の生徒同士で Demo を行う。

こうすると、(a) HRT が英語を使う機会が自然に増える、(b) 活動について生徒の理解が深まると同時に、listening の力が向上する。

- D) 授業の終わりには、Reflection を行う。(1)HRT が日本語で、本時の授業で(言語面や文化面、など) 生徒に気付いて欲しい点、記憶に残して欲しい点を短く述べることもあり、何も言わずに、生徒に発言させたり、下記のカードに記入させたりする。

- E) ALT は、必ず短い英語の表現で、生徒の良かった点や大切な点を述べることになっている。

(例) ALT: Many students raised hands. Their answers were very good.

I understand your English. I like your English. Thank you.

⑦ 各学年の年間授業時数

拠点事業が始まり、授業時数は、下記の通りに変更した。

(1年次から6年次までのカリキュラムに沿って教育が実施されている)

| 小諸市立 小学校 | 実施年次と各学年の年間授業時数 | | |
|-------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | 第一年次 (27年度) | 第二年次 (28年度) | 第三年次(29年度) |
| ① 外国語活動型 | 3 & 4年 年間 35 時間 | 3 & 4年 年間 35 時間 | 3 & 4年 年間 35 時間 |
| ② 教科型 | 5 & 6年 年間 35 時間 | 5 & 6年 年間 70 時間 | 5 & 6年 年間 70 時間 |

(注) 1、2年生の年間の授業時数は、それぞれ 10 時間、20 時間。

⑧ 英語部会の立ち上げ

英語教育推進役として、各校が一斉に「英語部会」を立ち上げたことも、小諸市の英語教育推進のために大きな力となっている。学校規模により、構成員の数は異なりますが、多い学校では6～7名で構成し、英語教育の推進に大きなパワーとなっている。また、小諸市では、ALTが常駐していることから、HRTとALTとが常時協力し合える体制ができている。

⑨「教科としての英語教育」の特徴を全教員とALTに徹底

「外国語活動」と「教科としての英語教育」の違いについて、日本語と英語で、簡単に説明した文書をすべてのHRTとALTに配布し、研修の一環とした。(紙幅の関係で文書は省略)

しかし、課題も少なくない。主な課題を取り上げ、課題解決の取組を簡潔に述べてみたい。

2. 課題と取組について

(課題1) Listening 力の育成

27年10月の第1週目に6年生を対象にlistening testを実施した。結果については、次の通りである。下記①、②のような比較的単純な問題については、ほぼ80%以上の正解率であった。

①

(例題1) (1)～(10) まで、それぞれ2回ずつ英語を言います。その単語の意味に合う絵を選んで○で囲みましょう。

cloudy, cloudy



(例題2) (1)～(10) まで、それぞれ2回ずつ英語を言います。その単語の意味に合う日本語を選んで○で囲みましょう。

square, square

| | | | |
|----|-----|-----|----|
| 星形 | 三角形 | 正方形 | 円形 |
|----|-----|-----|----|

②

次の会話を聞いて、会話の内容に合っている答えに○を付けましょう

(1) Hanako: How are you this morning, Taro?

Taro: I'm not fine. I'm a little sleepy.

| | | | |
|------|------|----|-----|
| 元気です | 頭が痛い | 眠い | 悲しい |
|------|------|----|-----|

③

しかし、下記のように、内容がやや長く、複雑だったり、創造力を働かせて、考えないと正解が得られない内容の問題では、満足のいく結果が得られなかった。

(問題例 1) 会話を聞いて、正しい答えを選びなさい。

Jiro: What country do you like to visit, Hanako? Hanako: I like to visit Australia.

Jiro: Why do you like Australia? Hanako: They understand my English.

| | | | |
|----------------|-------------------|--------------|-----------------|
| 英語の発音が 良いから | 日本語の分かる 人が多いから | 英語が通じるか ら | 英語の勉強が したいから |
|----------------|-------------------|--------------|-----------------|

(問題例 2) 六年生の二人が話しています。会話を聞いて正しい答えを選びなさい。

Jiro: Do you have a pet, Hanako? Hanako: Yes, I do.

Jiro: What is your pet? Hanako: It's a rabbit.

Jiro: Is it young? Hanako: Not so young, Jiro.

Jiro: How old is your rabbit? Hanako: Well, it's my age.

| | | | |
|---------|----------|----------|----------|
| およそ 5 歳 | およそ 11 歳 | およそ 18 歳 | およそ 20 歳 |
|---------|----------|----------|----------|

上記の問題を正しく理解するためには、話している「二人が小学校 6 年生」という前提が条件となっており、この条件と結びつけて理解することが必要だったのである。

日頃の授業の内容が比較的単純で、Question (one sentence) に対して one-word answer といった英語のやり取りが多かったので、それに対応した listening 問題の正解率は非常に高かったが、一歩踏み込んで思考を要する問題を理解する学力が修得できていないことが分かった。

この課題をどう解決したら良いのだろうか。次に、この課題への取組について報告したい。

(課題 2) speaking 力の育成----

(課題 1)と密接に結び付いていると思われる。5 年生から 6 年生にかけて、次第に表現の内容が深まっていかなければならないのだが、単純な対話に終始している傾向が強かったと反省している。そこで、英語のやりとりについて、工夫を重ねてきた。HR と ALT の対話に深みを持たせるよう、Catch-ball-English (両者の英語のやり取り)の質的向上に努めるようにした。すべての活動の前に、HRT と ALT は、活動の狙いと活動の仕方について demonstration をすることになっている。子どもたちの理解を深めるためであると同時に、HRT の英語使用力の向上を狙いとして、特に重視している指導法である。この、Catch-ball-English に次の通り、意図的に変化をつけて、情報を重ね、子どもたちの理解

を深めることを狙いとした。

〈工夫 1〉

① これまでは、What country do you like to visit? ⇒ I like to visit Australia. のような英語のやり取りが主軸でしたので、考えを深めつつ表現するというレベルまで、なかなか到達できなかった。そこで、先ず、① “and” と”but”, “And you?” ”How about you?”など、表現を広げる「繋ぎのことば」を意図的に導入して表現の幅をひろげてみた。対話は、次のような流れになった。 例えば、

(HRT): “I like to go to Australia. How about you?”

(ALT): “I don’t like Australia **but** I like to go to Italy **and** Spain.”

② さらに、**Why?, Who? ,When?** など、疑問視を多用することも導入した。子どもたちの返答は、one word や phrase で良いこととしたが、先生の catch-ball- English には、積極的にた情報を増やすし、内容を豊かにするよう心掛けた。ただし、先生の発する input が、comprehensible English であるよう配慮していることは当然である。例えば、次のような対話を重ねていき、既習の言語材料を、積極的に使用するよう努めている。

(HRT) :” I like baseball very much. Do you like to play baseball ,too?”

(ALT): “No, I don’t like baseball.

(HRT): “Why? Why don’t you like baseball?”

(ALT): “ I’m not good at baseball. I don’t like team-play. but I’m good at sports like swimming and marathon.”.

このような対話に慣れることによって、子どもたちは、考え、想像しながら対話の内容が理解できるようになるだけではなく、彼ら自身も、徐々に、Why? When 等を使って、対話を続けることが出来るようになっている。

（工夫2）想像力を掻き立てるための試み

--- 絵本の導入による Reading. ---

小諸市では、下記の通り、多種類の絵本を各学校に配布し、活用を勧めている。楽しく、想像力を誘う絵や挿絵を見ながら、Listening を通して英語を理解する力の習得を期待している。HRT や ALT、CD による dramatic な朗読を繰り返し聞き、やがて子どもたちは group の中で、互いに読み聞かせを行う。クラスによっては、下級生を前に朗読をさせるという試みもなされている。下級生にとっては刺激になり、また、上級生にとっては、対象が下級生だということで、比較的リラックスして読み聞かせができるなどの利点が考えられる。

（課題1）（課題2）の評価としては、9月に実施した listening test を再度実施してみる予定である。

今年度小学校用に購入した教材一覧

| 書名 | 出版社 |
|------------------------------------------------------|-------------------------|
| JUNGLE BOOK | Peason Japan |
| a bugs life | Peason Japan |
| SHARK IN THE PARK | Corgi Childrens |
| GUESS HOW MUCH I LOVE YOU | Walker Books Ltd |
| GREAT BIG ENORMOUS TURNIP | Egmont Books Ltd |
| ピースブック The Peace Book | 童心社 |
| Oxford Reading Tree Songbirds Phonics: Stage 1+ Pack | Oxford University Press |
| Oxford Reading Tree Songbirds Phonics : Stage 2 Pack | Oxford University Press |
| Oxford Reading Tree Songbirds Phonics: Stage 3 Pack | Oxford University Press |
| 世界の名作 大きな絵本 Aセット | 三善 |

(課題3) 文字学習について

「拠点事業」2年目の今年は、文字学習にも格別な努力を図った。

- ① まず、3年生から6年生まで、カリキュラムを整理。
- ② CAN-DO list も明確にした。学年ごとの CAN-DO list を簡略化してのべると、下記の通りである。

| | |
|-----|--------------------------------------------------|
| 3年次 | Alphabet の主として大文字を正しく認識できる。また、体で文字の形を作ってみる。 |
| 4年次 | Alphabet の大文字・小文字を正しく認識し、また、すべての文字をほぼ正しくかくことができる |
| 5年次 | 基本的で限られた単語を tracing, copying などの練習を通して、書けるようになる。 |
| 6年次 | 基本的で限られた短文を tracing, copying などの練習を通して、書けるようになる。 |

いずれの段階においても Alphabet の文字を正確に書けることが基本中の基本としていることが分かる。

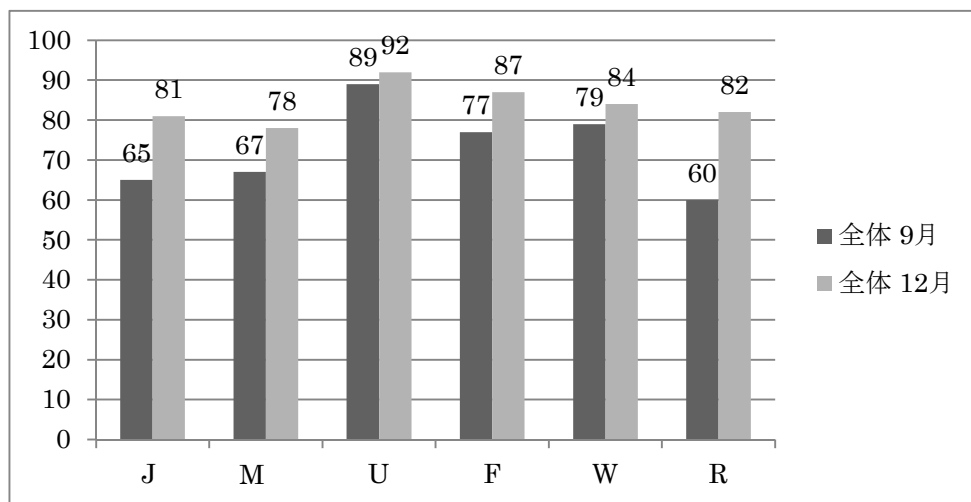
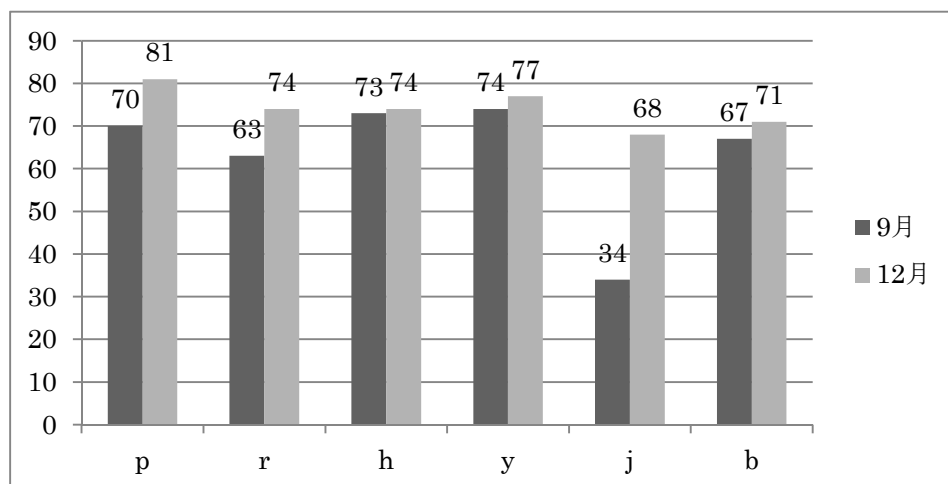
単語の学習としては、限られた基本語彙の学習に phonics rules を活用し、子どもたちが楽しみながら学べるように努めている。

また、学習の効率を考えて、4線ではなく3線を使って教育することにした。

最後に、Alphabet の修得状況の評価について述べてみたい。

まず、子どもたちが困難を感じている文字を ALT の皆さんから提示していただき、その中から大文字、小文字をそれぞれ 6 文字を選び、これらを録音した CD を使って、テストを行った。CAN-DO list によると、4 年次末までに、52 文字すべてが正しく書けることをめざしているのです。4 年生のテスト結果を、紹介してみよう。

下記グラフをご覧ください。9 月から 12 月へお時間の経過と共に成績が向上している様子が伺える（上が小文字、下のグラフが大文字の結果）。習得率が次第にのびていることから、3 月末までには、目標とする結果が得られると期待している。



(1) 学術論文

石濱博之・渡邊時夫 (2015). 『Hi, friends! 2』に準拠した聴解力テストの開発とその運用結果に関する報告」全国英語教育学会紀要 ARELE (26), 397-412.

石濱博之・渡邊時夫・染谷藤重 (2015). 『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する事例報告(2)」小学校英語教育学会紀要 (15), 18-33.

(2) 口頭発表

石濱博之、渡邊時夫

外国語活動における児童の聴解力と情意面の関係を探る－『Hi, friends! 2』に準拠した聴解力テストを活用して－

第 41 回全国英語教育学会熊本大会 2015 年 8 月 23 日

石濱博之、渡邊時夫

『Hi, Friends! 1』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する事例報告 (2)

第 14 回小学校英語教育学会神奈川大会 2014 年 7 月 26 日

石濱博之、渡邊時夫、染谷藤重

『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する事例報告

第 19 回日英・英語教育学会研究大会 2013 年 9 月 21 日